

さくら市立上松山小学校

児童数	学級数	内容区分（あてはまるものすべてに○を記入）
510名	21	() 児童生徒の体力向上に向けて体力向上プログラムを使った取組 (○) 新体力テストの調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善の取組 (○) 体づくりに関する家庭との連携 (○) 教職員の資質向上のための取組

1 ねらい

- (1) 休み時間に主体的に運動に親しめるような環境を設定し、児童の運動習慣を形成する。
- (2) 新体力テストの調査結果を活用して、学校全体や個々の運動課題に対して課題意識がもてるようにする。
- (3) 体育科の研修を通して教職員の資質向上を図る。

2 実施内容

(1) 児童会による「上松っこ体力アップ大作戦」

児童会（体育委員会）の取組として、昼休みの時間に運動課題を提示し、課題を行うとポイントシールがもらえるという取組を実施している。課題の内容はかけっこや立ち幅跳びなどの走・跳の運動、鉄棒等の器械運動、持久走等の体力を高める運動といったものを、その時期の体育科の内容とリンクさせながら、児童のアイディアを生かして設定している。また、運動の強度や課題は、学年によって差があるため、低学年の課題と高学年の課題をそれぞれ用意している。

(資料1)

(2) 健康体力の記録、めあてカードの活用

その年の新体力テストの結果と、全校統一の目当てカードを使って実施した鉄棒運動、持久走、なわとびの記録をまとめたものを累積して、成果や課題を次年度に活用できるようにしている。また、年度末に保護者の目を通すことで、体力の経年の状況を共有できるようにしている。

(資料2)

(3) 新体力テストの結果分析の共有と、授業実践の紹介

体育科研修として、教職員間で新体力テストの結果について共有し、課題意識をもって体育科授業の工夫改善ができるようにしている。また、授業実践を紹介することで、教職員の資質向上を図っている。本年度はICTを活用した児童同士の学び合いの場づくりの実践について報告し、方法や成果について研修した。

(資料3)

3 主な成果

- (1) 「上松っこ体力アップ大作戦」を通し、積極的、主体的に体力向上の取組を実践する児童が増加した。また、中でも休み時間を室内で過ごすことが多かった児童が課題の運動をするために外に出る姿が散見されるようになったことは大きな成果と言える。
- (2) 健康体力の記録を累積することで、経年の比較で成果や課題が分かりやすくなり、次年度の目標を明確にもつことができた。児童の反応の一例として「〇年生の時は...だったけど、今年は〇〇ができるようになった」と振り返るなど、児童自身が体力の向上について関心をもち、喜びを味わう姿が見られた。

